

## 並列直線で構成されている日本列島

蔵 田 延 男\*

### A Part of Parallel Straight Lines on the Topographic Maps of Japanese Chain of Islands

Nobuo KURATA \*

地表にでてきている特定の自然放射能を地下水や温泉の開発手法の中にとり組んで30年来利用して来たが、その都度地図上で並列直線が関係してきていることに興味をもって来ていた。そこで別の観点から、地形図上で三角点や標高点、あるいは付近で高いとみられる地点などを總ぐるみに結んで直線列をつくり、図葉毎にこうした直線が示す図毎に固有の方向を求めることを考え、国土地理院の1/50,000地形図、別に補足的に1/25,000を含めて、総数1,700枚の記入作業を3年がかりで実施してみた。その結果礼文島(20°W方向)/利尻島(10°E)あるいは種子島(50°W)/屋久島(50°E)のような典型的な対立例にはじまり、北海道から九州/西南諸島にかけて、NE-SW方向の並列直線が支配的で、これに対してNW-SE方向の並列直線が斜交するかたちで、あちこちで活躍している状況がよみとれて来た。

すなわち北海道では、道北東部から渡島半島遊樂部岳付近までの間北側では、NE-SWの方向が支配的で、その内部で天塩から襟裳岬に至るNW-SE方向(20~40°)の並列直線が断続的につづいており、道東と遊樂部岳以南の部分とに、NE-SWの並列直線が存在している。東北地方に入ると、北部から本州日本海側では幅広くNE~SWが支配的であるが、上信越山地の一帯に至って、

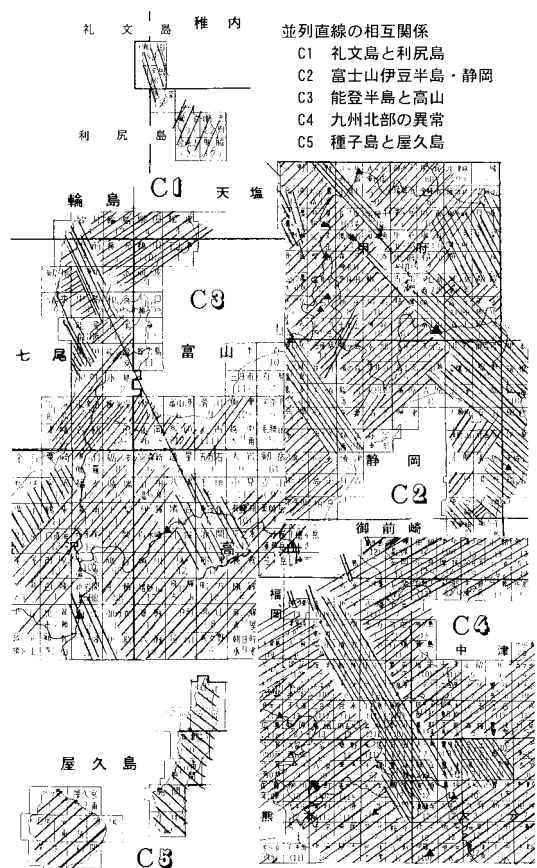


図1 並列直線で構成されている日本列島。

\* 東京地学協会正会員

\* A member of Tokyo Geographical Society

本稿は2003年7月18日に行われた講演をまとめたものである。

関東平野周辺の山地と関連し、NW SE 方向の大きなわだかまりをつくっている。太平洋側では、北上山地 / 阿武隈山地などが NW SE を主方向としており、この傾向は関東平野を含めて、伊豆半島の東半分のところまでつづいている。

フホツサマグナ以西では、石川県の皆月湾から発足する 30 °W 方向の並列直線帯が、130 km 隔った 1/25,000 船津図葉までの間で、その影響を与えている。一方中央構造線の方は、斜交したり交叉したりする異方向の並列直線が、焼津と光岳との間や幡豆町と伊良湖半島との間などで興味深い関係を示している。このほか名阪国道沿いの大規模矢羽根構造や六甲山東側から琵琶湖南東一帯、島根半島から松江市に亘る一帯などで、異方向の並列直線が交叉しているのが際立っている。なお九州北部福岡 / 大分両県にまたがる 30 °W 方向の並

列直線が集中的に斜交帯をつくっているなど、注目すべきこと少なしとしない。

このほか詳細については、紙面の都合上から別稿に委ねるが、問題個所の解説と関連図面および 1/2,700,000 日本列島全体に亘る並列直線の分布図などは、講演会当日参会者の方々に差し上げている。

付図

- C1 礼文島と利尻島
- C2 富士山伊豆半島・静岡
- C3 能登半島と高山
- C4 九州北部の異常
- C5 種子島と屋久島